

# 土浦女性団体だより

# つどい

第20号  
平成26年3月発行

編集・発行：土浦市女性団体連絡協議会  
土浦市大和町9番2号 土浦市男女共同参画センター内 TEL029-827-1107



「透明性のある団体にしたいの」と熱い思いを語る3氏

土浦市女性団体連絡協議会の先頭に立ち、男女共同参画推進へと努力されている眞山会長、栗栖副会長、今高副会長の3氏にお話を伺いました。

—今年度のセンターフェスティバルについて—

**眞山** 初めて市の男女共同参画センターと連携できたことが一番。どうすれば多くの会員に参加してもらえるか、5月から企画委員会や実行委員会を立ち上げて話し合いを重ねたことが良い結果になりました。

**今高** 役員の他に実行委員会を設置したことが会員が動いてくれるきっかけになりました。又寸

**地域へ発信!**  
**優しく、強く**  
**しなやかに!**

劇に大学生が参加し、若い人と共に学ぶ種を蒔きました。

**栗栖** 寸劇のねらいは「性別役割分担意識の解消」でした。多くの人を楽しく積極的に取り組む姿に感動しました。まさに協働の成果です。

**眞山** 成果としては多くの会員が関わったことも。それから寸劇をきっかけに私達の発想で地域の大学に声をかけ若い大学生の協力を得たこと。市長も役者として参加してくれました。又以前の周辺の市町村への働きかけが当日参加者多数へとつながったことなどがあげられます。

—第23回マラソン大会 協力について—

**眞山** 今年度のマラソン大会は雨と寒さの悪天候にもめげず、会員達は不平も言わずに役割を全うしたことに感動しています。

**今高** 私たちの働きぶりが目立ったのか、銚子市の市民視察団体らしき方達から「どんな団体なのですか?」と聞かれました。

**栗栖** マラソン大会は多くの人に「生命をはぐくむ霞ヶ浦」をPRする良いチャンス。そこに土女連が関わることは私達の存在をPRすることにのみならず。

**眞山** 関わって心を寄せていくことが人を動かすことに繋がるし、これこそがボランティアの神

髓。手がかじかんだ走者に「お母さん」なんて呼ばれながらペットボトルの蓋を開けてあげるなどスタッフの優しさが如実に表れた今回のマラソン大会でした。

—今後の課題・夢—

**眞山** 今回は若い方と連携したので更に広げていきたい。一方、県も含めて周辺市町村とのネットワーク作りもしたい。内部的には土女連の会員達の活性化を図るための情報伝達方法も課題の一つ。

**栗栖** 新市庁舎における男女共同参画センターを生活者である女性の立場から利用しやすいセンターとしてどう活用するかも課題です。

**今高** 土女連の各団体の悩みを団体間の交流を通して解決する糸口を見いだせないか探っていくことも土女連の大事な役割です。

**眞山** 土女連として問題提起した協同病院の件や新市庁舎等これからの行く末をしっかりとみていくことも土女連の大事な役割です。

—学ぼうシリーズについて—

この他、土女連の自主事業である「学ぼうシリーズ」については紙面を別にして詳しく説明しましょう。

(6ページをご覧ください)

男女共同参画センター  
フェスティバル

# 世代をこえて ともに広げよう

2013年11月17日

平成24年11月18日の土浦市男女共同参画都市宣言後、今年度は初めて市の男女共同参画センターと土女連が連携し、最初のテーマ設定から講師への依頼、昼食・軽食の提供、又寸劇に於いては、つくば国際大学の学生の協力を得るなど市職員と会員が一体となって取り組み、成功のうちに終えることが出来た。

## 講演会

### 「幸せの処方箋」

「男と女の新しい暮らし方」

講師・茨城大学 准教授

長谷川幸介氏

## 世代～社会参画司



ユーモアたっぷりに話される長谷川先生

- ① 人は独りでは生きられない動物である
- ② 4つの縁と「無縁社会」
- ③ 家暮（やぼ）と粋な暮らし方を考える
- ④ 多方面の分野から男女共同参画の意味を考える

## 長谷川孝介先生の講演を聞いて

霞ヶ岡在住 小田倉 栄

平成25年11月17日土浦市男女共同参画フェスティバル2013に町内の栗栖恵子さんより声をかけられ戸惑いながらも二つ返事で出席することにした。おそろおそろ9時50分会場に入り驚きを感じた。着席されている人は女性が多く、同行した町内の厚生部長天貝勉さんと静かに開会を待った。寸劇「桃太郎」を70年前を思い出しながら楽しく観賞した。長谷川先生の講演が始まる。「人は一人では生きられぬ」は人の字体で知っていたが、先生の言われることは「血・地・人・職・縁」につながる人間の幸せの中に新しい男女のつながり関係を一步ふみ込む必要を考えなければならぬ時であると強調されたと思う。ちよつと遅いが同感した。でもまだ男女共同参画の根元は何かを求明することはできない。空に浮かぶ雲の様に思えてならないので今後の勉強を大切にしたい。

## 交流会

男女共同参画の意識を地域に広げていくためにはどうすればよいかを長谷川先生の指導のもと

- ① 男女共同参画社会を作る
- ② 学校に入る
- ③ 男性を巻き込む
- ④ 他の行政局と連携する
- ⑤ 市町村や団体のネットワークを作る
- ⑥ 企業に入る
- ⑦ 地域社会に生かす

の7つのグループに分かれて、熱心な討論が繰り広げられた。

## 軽食



交流会の休憩時間に生活改善推進員手作りの「ハッスル肉まん」を参加者全員で味わいました。

寸劇

「昔話・桃太郎現代考」  
にみる性別役割分担

この物語の冒頭は有名であるが、どうも性別役割分業を匂わせ、気になっていたのが、私は書き直して楽しんでた。じい様にとって山は競争社会、斧を持って出かけたじい様は「疲れ果てた」と、ばあ様に愚痴をこぼす。ばあ様は「よっし、わっしが山へ行くべえ」と、キビ団子を持って山へ。ばあ様は動物たちと食べたり、仕事をしたりして、楽しみが増える。川へ洗濯に行ったじい様は、せせらぎの音を聞いて笑顔を取り戻す。リライトした物語はセンターフェスティバルに寸劇として上演された。

シナリオ制作者 栗栖恵子



どんぶらこ!



大名を熱演する中川市長



じい様は川へ洗濯に、ばあ様は山へたきぎ採り、生まれたのは桃子ちゃん

土浦市男女共同参画センター  
フェスティバルに参加して

コール・ブラウエ・ヒンメル  
団長 石井順子

暑い夏がようやく過ぎようとしていた頃コーラスの仲間からこの事業への協力依頼の話がありました。「男女共同参画」



♪花は花は花は咲く～

コール・ブラウエ・ヒンメルの有志

初めて聞く言葉。寸劇「桃太郎現代考」のバックコーラス。「何かしら。でも面白そう。」そんな思いで参加しました。第一回目の練習の日、初めての催しの意図と寸劇の意味がわかりました。会を運営されている方の多くは私より先輩と思われる女性たちでしたが、皆さん生き生きと活動されていて、日本女性の逞しさを感じる時間でした。しかし、現実には子育てと仕事の両立、職場での地位などまだまだ女性にとって厳しい社会だと思えます。土浦市が昨年男女共同参画都市宣言をし、その実現に向けて努力されていることを知りうれしく思いました。そしてその活動に参加させていただいたことを光栄に思っています。

昼食

「土浦商工会議所女性会」の皆様協力により「ツエッペリンカレー」が参加者にふるまわれました。



ご存知ですか? 「ツエッペリンカレー」が市販されていることを!

売店



海苔や牡蠣の佃煮の売り上げは東北被災地の復興支援へ





# 日本女性会議〈男女共同参画〉

## 2013あなん



### 第三分科会

つむぎたい！  
今と未来の大人たちに  
あなんで変わらにやそんなん  
更生保護女性会 武田眞知子

### 第五分科会

セカンドライフ（高齢者）豊かに輝いて共に生きる幸福社会  
食生活改善推進員連絡協議会  
馬場尤基

ここでは、家庭や社会の様々な立場から新しい子育てに挑戦している大人たちの実践報告を基に「子育ての今と未来」を考えた。今の世の中、子育てにやさしい社会とは言えない。そのような中で、今できることは？「父子で遊べる場を作り、子と時間を共有することで父としての自覚が持てた」「元気なシニアは、自分の子育てを支えてくれた社会に、知恵と工夫で恩を送ろう」「若者は覚悟を持って未来の子どもたちのための活動を提案しアクションを起こす」これは地域の中で連携し、想定外の出来事のための防災・復興の基盤となる。離れてしまつた地域・社会が繋がることこそ、未来の大人たちに紡ぐこと！

高齢期がどの時代においても幸せ感のある社会でありたいと「幸福社会」と表現。奈良に定住し故郷徳島の阿波踊りの連を立ち上げ、参加型セカンドライフを推進する人。教職を退職後も「子供たちが活躍する社会」の構築を目指して「コドモ歩き遍路、外国人向けの巡礼地案内」の活動を継続する人。早くに夫を亡くしながら、高齢者の自立支援としての宅配、配食ランチサービスNPOを立ち上げ、豊かで生き生きとした高齢社会の実現に邁進する人。「楽しみたい（心身の健康）、人と接したい（社会参加）、実らせたい（生涯学習）」という熱意と実践が「生きがい」に高まり、健康寿命を延ぶことになると実感しました。



会場にて

平成 25 年 10 月 11 日(金)～13 日(日)に日本女性会議〈男女共同参画〉2013あなんが徳島県阿南市で開催されました。初めて当団体から男性会員が日本女性会議に参加しました。3名の参加者は9つの分科会の中から各自が関心のある分科会を選択し問題意識を持って挑戦しました。

平成 26 年度は 10 月 17 日(金)～19 日(日)に北海道・札幌市で開催される予定です。

### 第六分科会 「食育」

郷土の人・自然・食でつくる絆  
これが阿波の食育だ！  
六好会 押久保忠夫



交流会にて

「食」を通して、家族同士はもとより、広く地域の人々のつながりや絆を深め育み、食文化を伝承し、次代を担う子ども達にふるさとの味を残し伝えるとともに、ライフステージに応じた食、生産から食卓まで安全で安心な食、子どもにも大人にも夢を与え生きる力を育む食のあり方について男女共生の視点で考える。以上のことをテーマに、コーディネーター徳島県知事の飯泉嘉門氏、パネリスト田木勲、松浦浩二、久保恵美子の三氏によりディスカッションが行われました。それぞれの発表は体験や実践に基づくものであり貴重な知識を得ることができました。今回の会議で得た知識を今後の活動に生かしていきます。



かぼす君

# 調査研究部会活動報告

土浦暮らしの会 山根 幸美

男女協同参画「意識から行動へ」を念頭に「まちづくり」のテーマ5年目、今年度は「中心市街地のまちづくり」について聞きました。

10月10日(木)都市計画課から「土浦市中心市街地活性化基本計画(案)」について。

1月23日(木)まちづくりコンサルタントの伊藤春樹さんとわくわくプロジェクト土浦の日辻美香さんから「まちづくりへの取り組み」について聞き、女性

## 総務部会 活動報告

地域婦人団体 神立 史子

総務部は総勢9名で、市議会傍聴の受付と、広報(つどい)の編集をやっております。それぞれの担当になられた方は、お忙しい中、出席され仕事をしておられます。市議会受付は、年間8日間行います。傍聴申し込みが午前、午後には渡す日は、一日仕事となります。人数が少ないため、一人で2回担当されている方、本来の仕事をクリアして下さっている方などがいます。

の目線を生かしての手探りが続いています。

## 調査研究部会に参加して

食生活改善推進員連絡協議会

若林久恵

湖畔のまち土浦を良くしたいとの思いで調査研究部会に参加しました。しかし正直なところ調査研究部会に関する予備知識もなく、何をすべきなのかも分からないままのスタートでした。回を重ねるごとに、色々の分野で地域の発展のために尽くされている方々がおられることに喜びを感じながら多くのことを学ぶことができたと思っています。

男女共同参画センターの職員の方々にお世話になることも多く、ありがたく思っています。

つどい編集については、女性団体の行事報告を主としていますが、執筆のお願い、原稿集め、どのように配置するか、どのようになれば読んでいただけるかなど、編集を工夫し、パソコンに打ち込みます。ずっと以前は原稿と位置を示した表を印刷所へ頼みましたが、現在は費用節約のため、ほぼ出来上がった状態の物を印刷所へお願いしています。編集担当者は5人ですが、家庭事情、お勤めの都合などで

特に「放射能汚染と食の安全について」をテーマとした話は食のボランティア(食生活改善推進員)をしている私には興味深いものがありました。また今年度は「まちづくり」をテーマに土浦市の担当者の方から、土浦を魅力あるまちとするための今後の取り組みについて聞くことができました。土浦の駅前に市の庁舎が移転することは知っていましたが、その青写真というかレイアウトを見るのは初めてでした。新しく図書館なども建設されるようで夢が膨らむ思いをしています。そんな中、地域の発展のためにコンサルタン

欠席があり、ほとんど二、三人で行うことが多いです。パソコンの出来る方お二人に、重責を担っていただいています。私としては、ご苦勞をおかけして、申し訳なく、心より感謝しております。今年は編集会議で11回集まりました。今年は男性の方からの寄稿があり、男女共同参画に向かつて一歩進んだかなと考えております。各団体会長さん方には是非総務部へ、パソコンの出来る方をお誘い下さって、入部をして下さるよう、希望いたします。



地域の発展を語る  
伊藤氏と日辻氏

トとして色々な分野で提案をされている伊藤さんや、わくわくプロジェクト土浦で、牛乳パックや竹などの身近なものからまちを元気に明るくする取り組みをしている日辻さんの話は、自然とまちの発展や、食と安全などを考えるうえでとても参考になりました。水と緑と人がきらめき、安心のまち、歴史と活気のあるまち土浦を新たに作るには、今後行政のきめ細かい魅力策や、市民の提案等を積極的に取り入れるとともに、私たちを含めた地域の協力が不可欠であると思います。そして、県内や県外から土浦に魅力を感じ、多くの方が訪れるようなソフトの面の施策も重要ではないかと思



## 研修部会 活動報告

T M オルカ 山田 陽子

今年度第一回は、12月22日に「日本女性会議2013あなん」報告会と土浦市廃棄物減量等推進審議会報告を開催した。38名の参加者で、平成27年度からゴミの出し方が変わるということで、担当課からの説明も頂きながら、皆様熱心に研修を終えた。

第二回は、2月25日に、第一部「土浦市新庁舎の最新情報について」担当課課長より丁寧な説明を受け、新しい男女共同参画セン

ターの様子がよくわかった。第二部は軽食を挟んでこれまでに参加された27名の方々とこれからの土浦市の女性行政について情報交換会をおこなった。

### 研修部会に参加して

JA土浦女性部 岡田 和子

初めてこの事業に関わる機会を与えられ研修会に参加した。そして、その素晴らしさに感動し、もっと早く関わられなかったことを残念に思った。身近にこんな

魅力的な生き方をしていいる女性達が居られることを知り、私は大いに触発されたのである。国内外への派遣研修会の報告会ということでも18名の方が発表され、3分間という制限時間の中でポイントを押さえた見事な報告がなされていた。タイを訪れた方々からは、東南アジア女性の貧困から来る深刻な性の問題。「リトルバンコク」と言われる吾が街の恥部を曝け出しているワークショップ。「北京宣言」推進活動、又北欧派遣では教育や福祉の充実など、その国の豊か

さを肌で感じて来られた様子などが生き生きと語られた。エネルギーで力強く話す姿に溢れんばかりの女性パワーを感じた。中盤、眞山会長の「働く女」「恋する女」「闘う女」をめざすという言葉に胸を熱くした。職場や地域社会では、まだまだ女性の地位が軽視されているのが現状。特に地域社会では「女のくせに」的な男性優位の考え方が根深い。私にとって今後も「闘う女」として地域の意識改革に挑んで行くことに勇気を得た研修会だった。

### 土浦市女性団体連絡協議会自主事業

#### 学ぼうシリーズⅢ

## このまちに生きる私たち

—土浦市の課題と取り組みは—

H 26年3月20日 PM1:00～

私たち土浦市女性団体連絡協議会は3,11の東日本大震災を経験し、そこから元気な未来のあるまちづくりのために女性自らが男女共同参画の視点で今日的課題について学び合い、解決に向かって一歩前進していくことの大切さを確認した。ここから「学ぼうシリーズ」が立ち上がり今年度は第三回『このまちに生きる私たち』と題して土浦市



塚本市長公室長

を、「人として住みたい魅力あるまちに」していくための話し合いと政策提言までつなげる女性たちのネットワーク作りについて話し合われた。参加者70名、石岡市、牛久市、阿

見町、美浦村等から担当課職員女性団体等、県女性青少年課、女性プラザ等からの参加もあった。更に心強くしたのは市内区長さん等も参加して、積極的に関わっていただいたことだ。第1部は塚本市長公室長から土浦市の26年度の予算、主要概要などの説明を聞き、第2部では長谷川幸介茨城大学准教授のファシリテーターの下、事業提案型ワークショップを行った。

このワークショップは次年度も見据えて、①市町村の概況を知る②私たちが考える土浦市の事業課題は何か③その課題は生活していくためにどの様に重要度があるか④重要事業に対し、担当職員とその事業の有効性、実現可能性、財政の裏付け等の確認⑤その事業を実現するための市民力はあるか⑥土浦市にどれだけ魅力ある事業としてアピール、政策提言に繋ぐかの6段階に分け、今回は最初のステップとして①～③まで行った。そこから土浦市民として重要な事業課題として1.子育て支援

2.高齢者の福祉 3. 暮らし・環境 4. 駅前開発・観光 5. 市民協働 6. 女性の参画の6つの課題を確認した。より効果的でしかも協働的に進化するワークショップで具体的



長谷川茨城大学准教授

に市民の声を政策提言の場に持っていかなければならない。前人未到の超高齢社会はこれからが本番！幸せな社会の創造に私たち女性の視点で提言、行動を！ (今高記)

その他の活動報告

かすみがうら

マラソン大会協力

平成25年4月21日第23回かすみがうらマラソン大会に土女連会員34名がバナナ配布に協力しました。冷たい雨が降りしきる中ゴールした走者の方達から「お母さん、手がかじかんでバナナの皮が剥けません。すみませんが剥いて下さい」などと声をかけられ、雨と寒さにもめげずに快く応じる会員の姿に、主催者側からは多大な感謝の言葉をいただきました。



お疲れ様！バナナをどうぞ

地域医療運営協議会報告

食生活改善推進員連絡協議会

高橋街子

去る8月8日、市保健センターにて会合が持たれました。

一、市の地域医療が円滑に施されるためにこの協議会が置かれ、15名の委員（市議会議員、医師会及び歯科医師会の会長及び会員、保健

所長、学識経験者、副市長、市長が必要と認める者）で組織されています。

一、救急医療の現況報告、市民の休日及び夜間の医療不安解消のため、休日緊急診療（小児科、内科、外科、産婦人科、歯科）に対し、在宅当番医制を実施、更に病院群による二次診療体制も図られ、緊急時、消防署119番の案内と6台の救急車による支援を日々受けていることがわかりました。

一、保健所を中心に、「健康つちうら21計画及び食育推進計画」市民と一緒に「健康まつり」「ウォーキングからはじめる健康づくり」市内8地区のロードを計画し市民の笑顔を得ています。

現在県内の健康指標から「血糖値改善大作戦」が始まり糖尿病で苦しむ人を減らすため発病予防計画が実施中でした。この協議会は市民の健康と幸せを願い真剣に活動されています。

明日の地域づくり委員会

土浦友の会 宮木 禮子

平成25年5月から「明日の地域づくり委員会（茨城県）」に参加しています。

委員会は ①産業・環境 ②福祉・医療 ③教育・文化の3部会で構成され私は②部会に入りました。茨城県の将来を見据え、住みよいまちづくりの立案をしていきます。12名中9名はシルバー。問題提起は高齢社会で豊かな生活をおくるための試案が、多くかたよりがちです。

月1回の委員会はどんな方向づけが出来るか暗中模索、回を重ねるごとに少しずつ集約され、県ではどのような施策を出しているか、又提言は実行されているか、説得力のある提言書を作成したいと気付きました。

・シルバー体操指導者の育成  
・ホットラインの創設（夜の救急病院の実態）  
・予防医学のアプローチ（例、太陽村）

・地域での支えあいシステム  
・空き家利用の町民サロン  
等が検討されています。  
温暖な気候に恵まれた茨城県は新たな変革を求め私達住民が自覚し協力、実行していくこと

が大切だと思います。

広島平和記念式典に参加して

新治婦人会 桜井 芳子

以前、夫と観光旅行で訪れた広島。原爆ドームを見た衝撃を今でも覚えています。今回、土浦市平和使節団として平和記念式典に参加してまいりました。

8月5日から原爆ドーム・平和記念公園周辺は、全国から「平和の折鶴」を持った学生・使節団で溢れんばかりでした。私達も平和を願う折った千羽鶴を「原爆の子の像」に捧げて参りました。6日の記念式典には、遺族の方々と共に黙祷を捧げ犠牲になられた人々に祈り、その夜は灯籠流しに参加しました。今回で20回目の使節団派遣に参加させて頂き、とかく戦争の記憶が薄れていくなか、平和の尊さ、戦争の悲惨さを後世に伝えることの重要性を感じました。



原爆ドームの前で

## 女性団体連絡協議会所属団体紹介

土浦市母の会連絡協議会（会員351名）

昭和24年、戦後の混乱期の中で産声を上げた母の会連絡協議会、当時も今も役割は社会的弱者に寄り添い見守ることである。

活動は、本会をはじめ交通安全母の会・子どもを守る母の会・消費生活連絡協議会・母の会婦人学級等と多岐にわたる。理事評議員の25名を中心に活動中。

うららフレンドハウス

（会員18名）

1995年、世界女性会議NGOフォーラム参加者により会は発足する。男女共同参画社会実現のため市内小・中学生を対象に出前講座を実施している。

家庭生活の一部を寸劇にして生徒達と性別役割分業、人間関係等について考えてもらっている。自分らしく生きるため。

土浦商工会議所女性会（会員59名）

本会は会員相互の親睦と啓発をはかり、女性会の経済認識を広めて企業経営に役立てることを目的としています。また、桜まつりやカレーフェスティバルではツエツペリンカレーを振舞い、キララまつりでは七夕おどりに参加するなど、まちづくり活動にも積極的に参加しています。

上大津婦人会

（会員40名）

昭和25年に発会し、63年という長い歴史である。

主な活動は、かすみがうらマラソン、10マイル10kmマラソンでの協力・市議会傍聴・合同移動研修・赤い羽根共同募金・地区歩学会への協力などである。

土浦市地域婦人団体連絡協議会

（会員170名）

私共の団体は戦前の国防婦人会が原点で、戦後再び世の中に貢献したいと、先輩方が立ち上がり、ました。その後、紆余曲折があり、今日に至っています。

事業としては、災害地方への援助・複十字・北方領土返還・赤十字奉仕等を行い、会員増強にも力を入れています。

平成25年度

土浦市女性団体連絡協議会

事業報告

### 【自主事業】

・総会 5/23 役員会 15回

・三部会合同会議 7/24

### 調査研究部会

・会議他 8/1 1/17

・土浦市中心市街地活性化基本計画について 10/10

・まちづくりへの取り組みについて 1/23

・研修部会 9/19 2/20

・「日本女性会議2013あなん」報告会 12/12

・土浦市新庁舎について 2/25

・海外・国内研修派遣事業

・終了者と情報交換 2/25

・総務部会(含つどい編集)

・会議 計10回

・市議会定例議会傍聴

学ぼうシリーズⅢ 3/20

「このまちに生きる私たち」

【共催事業】

・センターフェスティバル 11/17

・実行委員会等 15回

・第23回かすみがうらマラソン

(兼国際盲人) 4/21

・広島平和記念式典 8/5・8/6

・人権と平和のつどい

(平和記念式典体験報告)

・日本女性会議2013あなん

10/11・10/12

### 【編集後記】

今回は、土女連トップの話し合いを座談会形式で取材しました。又、日本女性会議出席者の男性会員からの寄稿、センターフェスティバル参加者の会員外の方からの寄稿など、わずかながらもマンネリ打破編集を心掛けました。会員、その他の皆様からのご寄稿ありがとうございました。一部割愛させていただきます。お詫び申し上げます。



編集委員

神立史子

加茂美那子

小坂富士子

稲見清美

三松由美子